

科目名 (科目番号)	運動器障害の 特性と対応 (061161)	教員名 三島 初	学科等	理学療法	必修	履修年次	2
			曜日・時限等	時間割参照	単位数	2	
			オフィスアワー		非常勤		
授業概要	総論では、理学療法に必要な整形外科の基礎知識（骨・関節・腱の構造と機能）、診断・検査、整形外科の治療について説明する。各論では疾患別の診断法、治療法について視聴覚教材を用いて解説する。更に機能障害および日常生活への影響についても言及する。						
準備学習	「毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること」						
授業計画	回	授業項目	学習内容・到達目標				
	1	運動器の構造と機能	到達目標:運動器の正常発達、加齢現象について整理する。 学習内容:運動器(骨・関節・筋・腱・靭帯)の正常解剖、機能解剖について学ぶ。				
	2	頸椎・腰椎障害と対応	到達目標:脊椎脊髄障害についての代表的疾患を理解する。 学習内容:腰痛をきたす疾患を学ぶ。腰椎椎間板ヘルニアと腰部脊柱間狭窄症についてその診断と治療の原則を理解する。脊髄症の概要を理解し、頸椎症性閉鎖症、頸椎後縦靭帯骨化症の診断・治療を学ぶ。				
	3	上肢障害の特性と対応	到達目標:上肢障害の代表的疾患を理解する。 学習内容:手・肘の機能解剖、上肢の障害、疾患の診断、リハビリテーション(作業療法、ハンドセラピー等)について理解する。				
	4	下肢障害の特性と対応	到達目標:上肢障害の代表的疾患を理解する。 学習内容:下肢の構造と機能・下肢疾患の概略について学ぶ。				
	5	筋骨格系感染症と対応	到達目標:骨・軟部の感染症についての代表的疾患を理解する。 学習内容:骨・軟部の感染症について、症状、起原菌、診断、合併症、治療の要点を学ぶ。				
	6	関節障害と対応	到達目標:代表的な関節疾患の成因・病態を理解する。 学習内容:関節リウマチとその類縁疾患、(膠原病)の診断、治療について学ぶ。変形性関節症の病態生理について理解する。症候、診断、治療の要点を学ぶ。骨きり術、人口関節置換術の概要を理解する。骨壊死の病態生理を学ぶ。大腿骨頭壊死の診断・治療原則を学ぶ。				
	7	四肢循環障害と対応	到達目標:循環障害の成因と鑑別を理解する。 学習内容:四肢の循環障害についてその概略を理解し、間欠性跛行の鑑別の要点を学ぶ。				
	8	筋骨格系腫瘍と対応	到達目標:主要な骨軟部原発腫瘍の症候・診断を理解する。 学習内容:転移性骨・軟部腫瘍の診断・治療原則について学ぶ。				
	9	救急・外傷処置の特性と対応	到達目標:外傷の初期治療・トリアージについて理解する。 学習内容:外傷の診断、初期の対処、治療原則、合併症について学ぶ。				
	10	骨折・脱臼・捻挫の特性と対応	到達目標:代表的な外傷について理解する。 学習内容:骨折・脱臼・打撲・捻挫の定義、発生部位、診断・治療、リハビリテーションについて理解する。				
	11	上肢外傷と対応	到達目標:上肢の外傷について、代表的な疾患について学ぶ。 学習内容:各上肢外傷について診断・治療が列挙できる。				
	12	下肢外傷と対応	到達目標:下肢の外傷について、代表的な疾患について学ぶ。 学習内容:各下肢外傷について診断・治療が列挙できる。				
	13	脊椎脊髄損傷と対応	到達目標:脊髄損傷についてその受傷原因、受傷形態、診断、分類、治療、慢性期の管理について理解する。学習内容:脊髄損傷の各ステージにおけるリハビリ介入が理解できるようにする。				
	14	神経・筋疾患と対応	到達目標:各神経疾患の成因を理解する。 学習内容:末梢神経損傷と回復形態の分類、代表的な末梢神経損傷と特徴的な肢位、診断、治療原則を学ぶ。高齢者の身体的特徴を理解する。				
	15	総合	到達目標+学習内容:高齢者に多い整形外科的外傷について概要を知る。骨粗しょう症の病態生理と運動器不安定症の疾患概念を理解する。最後に国試演習を行う。				
成績評価の方法・基準	テスト(100%)						
教科書	筋骨格障害学	和田野安良 他			理工図書		
参考図書							
教員からのメッセージ	授業の進度、その他により一部内容を変更することがあります。教科書の章末問題をよく勉強すること。						